



株式会社ジェノバ  
2023年9月期

# 決算補足説明資料

東証グロース市場 5570

## INDEX

---

- 01 会社概要
- 02 2023年9月期決算報告
- 03 通期業績予想
- 04 事業紹介
- 05 質疑応答

# 01 会社概要

Company profile

# MISSION

高品質な位置情報の提供により安心・安全な  
社会づくりに貢献する

# VISION

リアルタイムかつ高精度な位置情報サービスで  
事業を拡大する

# 会社概要

会社名	株式会社ジェノバ	
証券コード	5570	
設立	2002年1月	
本社所在地	東京都千代田区神田須田町一丁目34番地4	
事業内容	GNSS補正情報配信サービス等	
役員	代表取締役社長	河野 芳道
	代表取締役専務	戸上 敏
	社外取締役	長尾 隆史（弁護士）
	監査役	菅原 光一
	社外監査役	大鹿 博文（税理士）
	社外監査役	野地 博久（公認会計士）
資本金	4億7,350万円	
発行済株式総数	14,205,000株	
従業員数	18名（臨時雇用職員2名含む）	
決算月	9月決算	

\* 2023年9月末現在

2002年1月

会社設立

5月

国土地理院が電子基準点からの情報を民間開放（約200点）  
これに伴い、ネットワーク型RTK-GPS補正情報配信サービスを開始

2003年6月

ネットワーク型RTK-GPS補正データ全国配信を開始（約1,200点）

2004年7月

国土地理院が「ネットワーク型RTK-GPSを利用する公共測量作業マニュアル(案）」（基準点測量編）を公表

2007年3月

特許「測量システム」（特許第3926732号）取得

2013年5月

マルチGNSS補正情報配信サービスの全国配信を開始

2016年5月

業界初、電子基準点約1,300点を使用した配信サービス開始

2018年4月

QZS（準天頂衛星）とGPS L5データを含んだマルチGNSS配信サービスを開始

2020年4月

KDDI株式会社と業務提携締結

2021年6月

株式会社日立産機システムと資本業務提携締結

2023年4月

東京証券取引所グロース市場へ上場

# 02 2023年9月期決算説明

Financial results highlights

# 決算ハイライト

2023年9月期  
決算報告

F Y 23/9 業績			F Y 23/9 計画	
(単位：百万円)		前期比		計画比
売上高	<b>1,206</b>	+3.8%	<b>1,230</b>	<b>98.1%</b>
売上総利益	<b>957</b>	+8.6%		
(売上高総利益率)	(79.4%)			
営業利益	<b>651</b>	+9.2%	<b>630</b>	<b>103.3%</b>
(営業利益率)	(54.0%)		(51.3%)	
経常利益	<b>641</b>	+7.5%	<b>607</b>	<b>105.6%</b>
(経常利益率)	(53.2%)		(49.4%)	
当期純利益	<b>443</b>	+7.7%	<b>412</b>	<b>107.5%</b>
(当期純利益率)	(36.8%)		(33.6%)	

## 売上高

- ✓ 契約数：順調に増加  
期末時点契約数：8,529  
今期も新規獲得により積上る
- ✓ 測量分野は堅実に成長
- ✓ ICT土木、IT農業での需要も強い（国策の側面）
- ✓ ドローンの利用も拡大

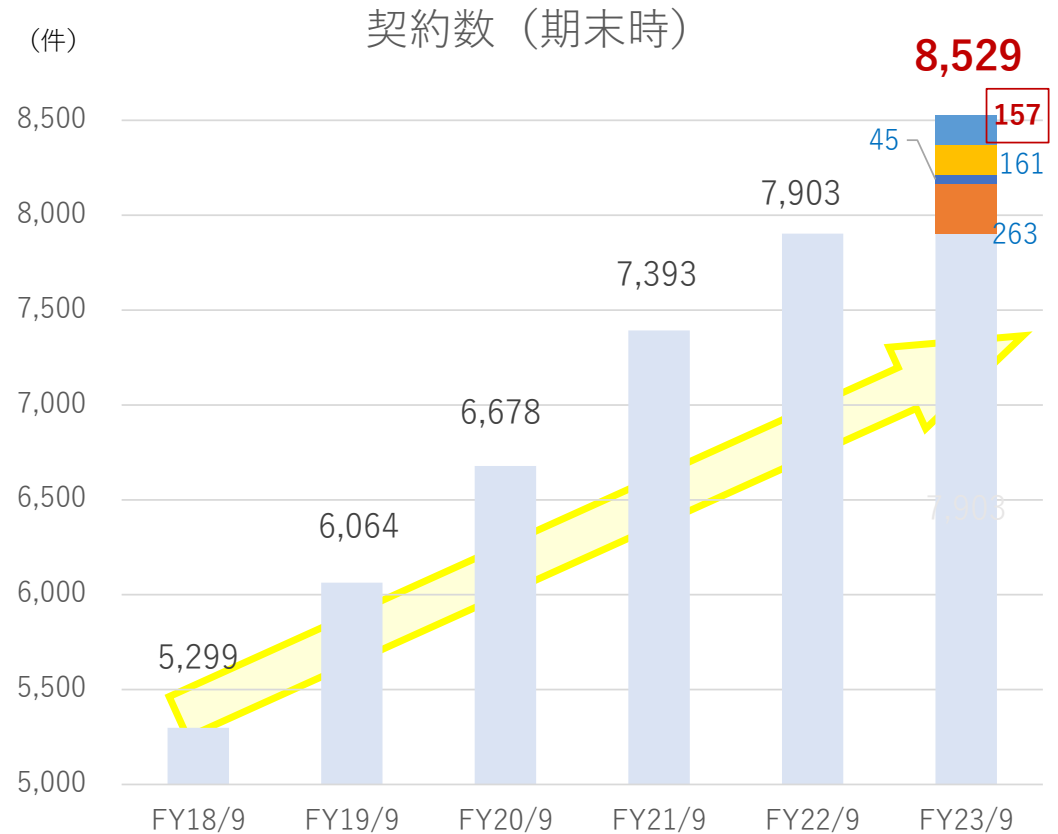
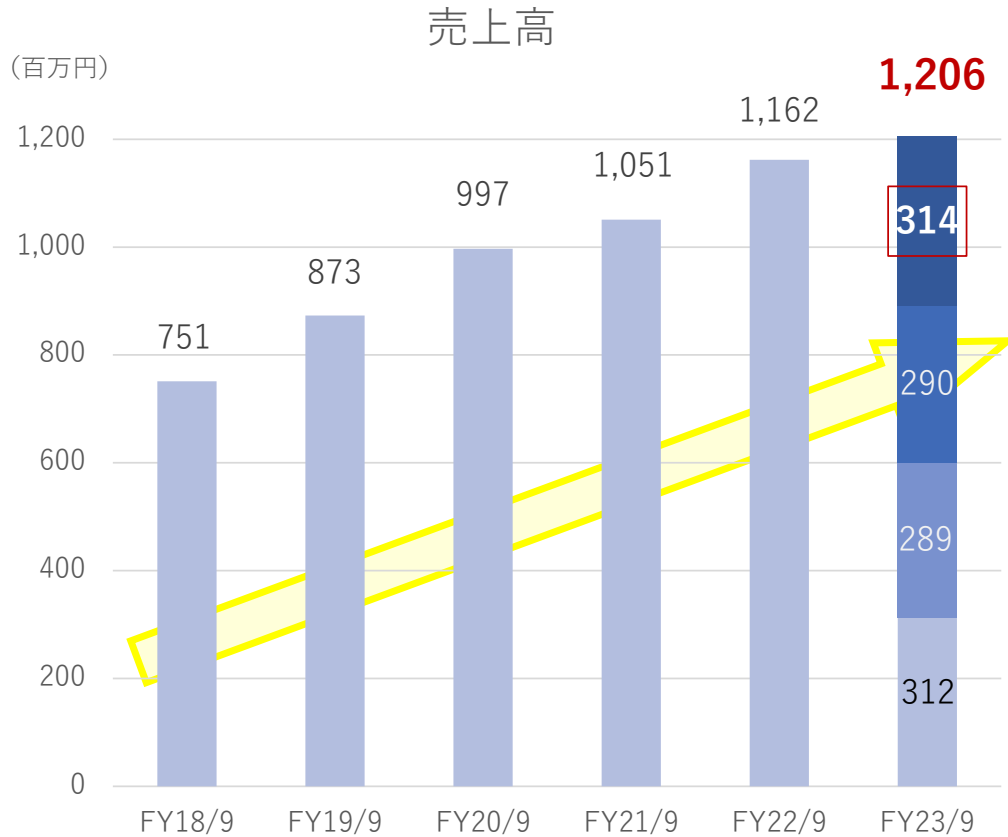
## 計画に対して

- ✓ 売上高は計画比少し届かず  
期中において長年ご契約いただいていた研究機関等で進行していたプロジェクトや当社の補正データを用いた各種実証実験等が一部終了したことに伴う契約満了が複数重なったことが影響いたしました。
  - ✓ 営業利益、経常利益、当期純利益は、それぞれ事前の計画値に対して3.3%～7.5%程度の超過で着地
  - ✓ 過去最高の売上・利益を達成
- ※ 8期連続増収、2期連続増益



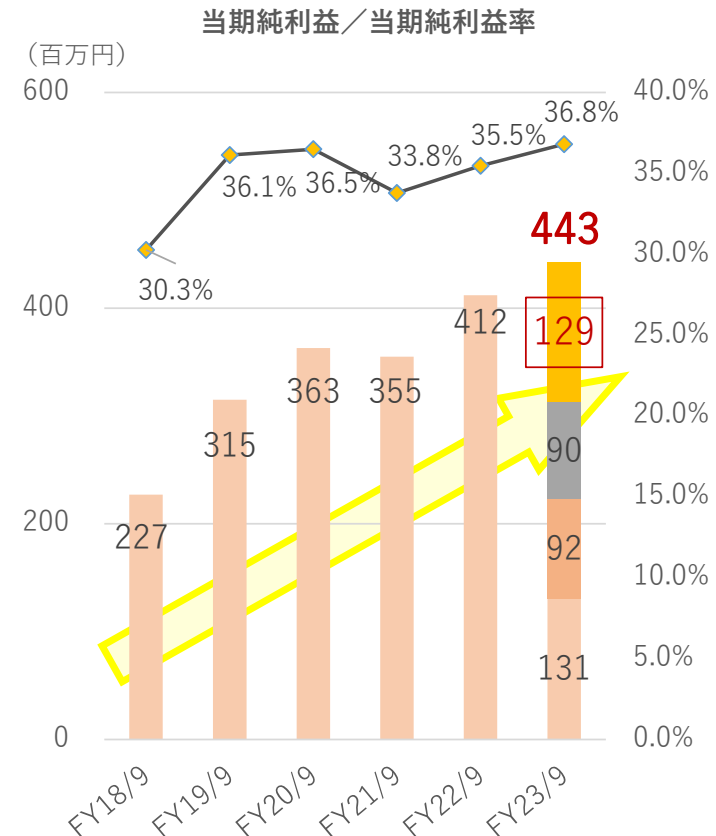
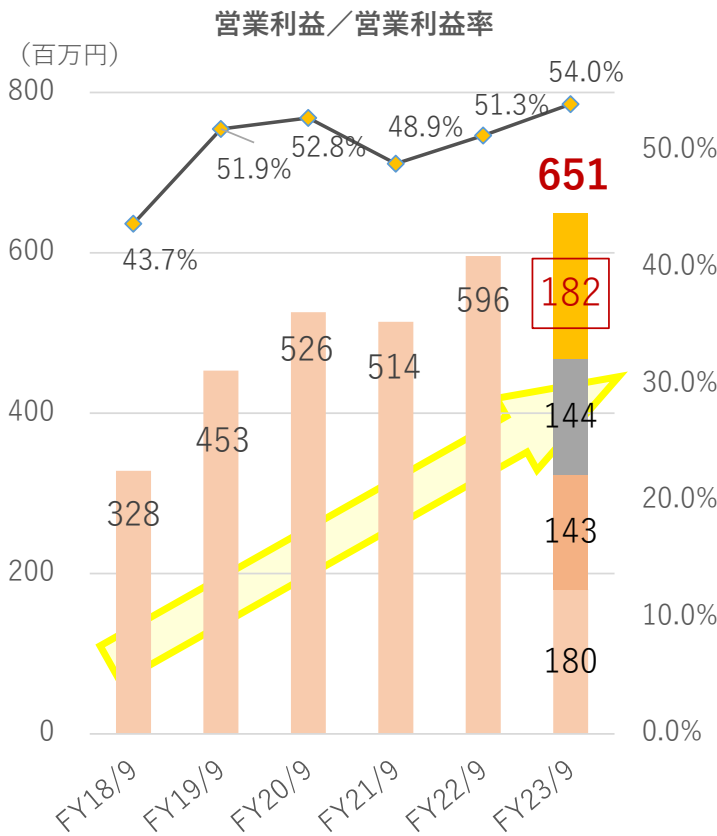
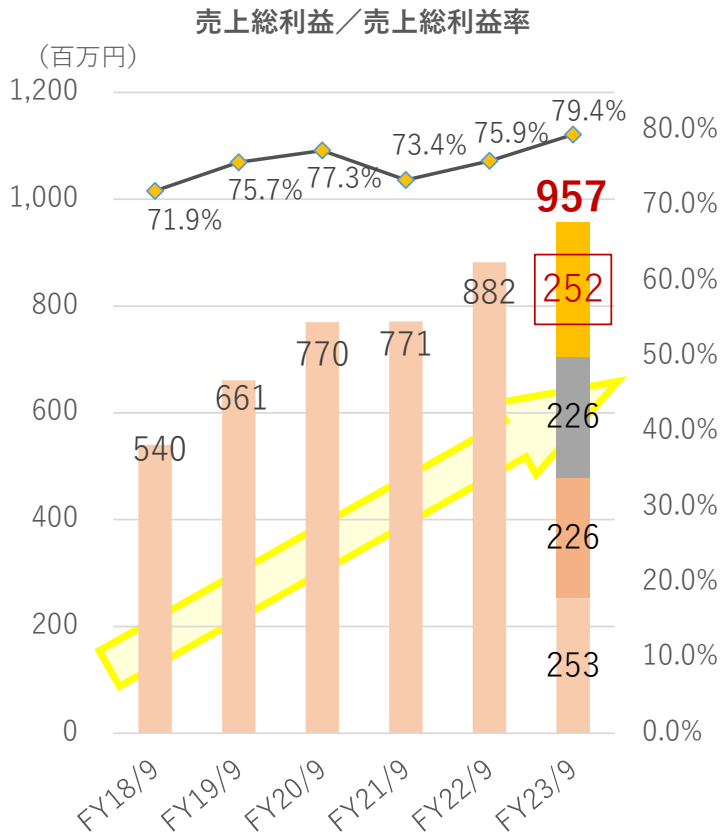
# 業績推移①（過年度5カ年+当期） 売上高・契約数

- ✓（ここに記載はありませんが）FY16/9 から売上高が8期連続過去最高を更新しています。 ※FY16/9売上高：530百万円
- ✓ 契約数も每期着実に積み上がっています。



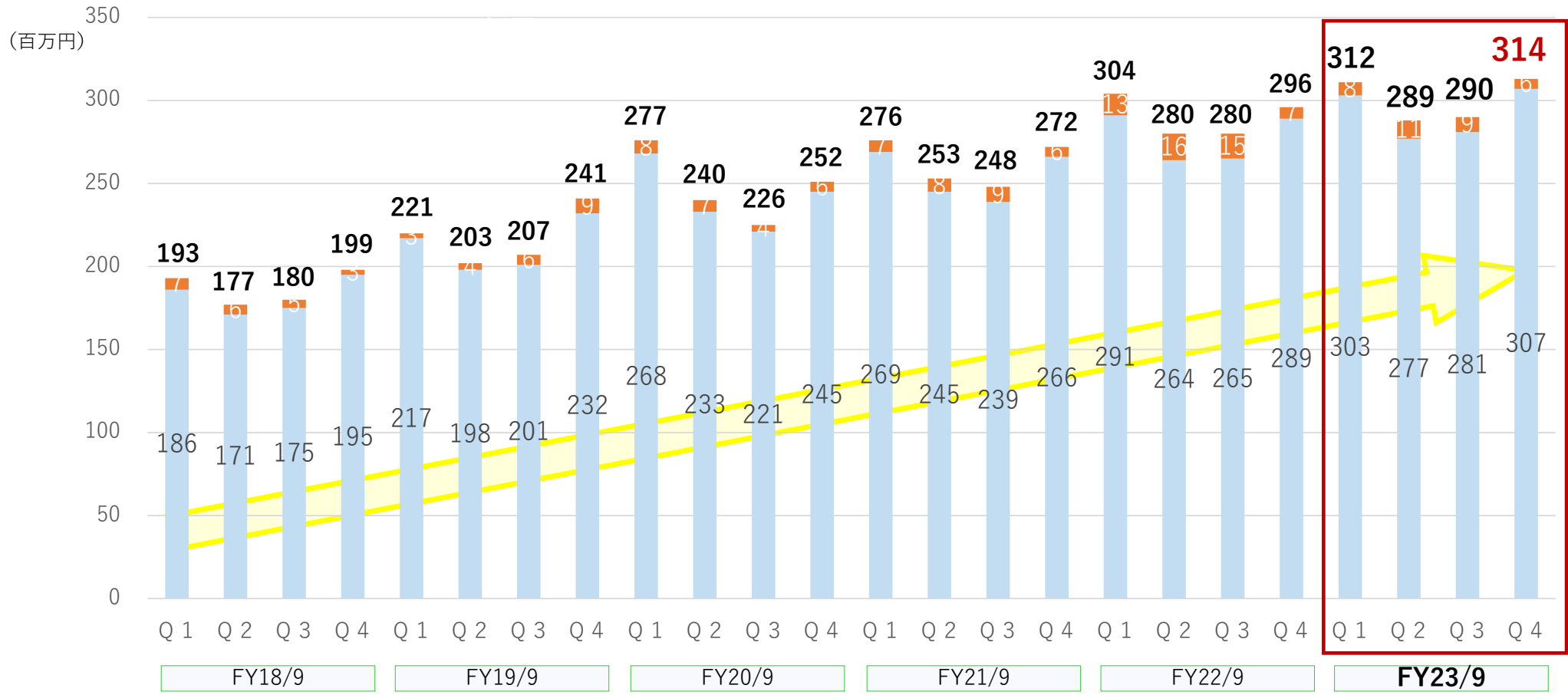
# 業績推移②（過年度5カ年+当期） 売上総利益、営業利益、純利益

- ✓それぞれの利益の額は順調に増加しており、営業利益、当期純利益ともに2期連続過去最高益となりました。
- ✓利益率も高水準を維持。粗利率は80%近く、営業利益率は50%台、当期純利益率は30%台を示しています。



# 売上高（四半期）の推移 （過年度5カ年+当期）

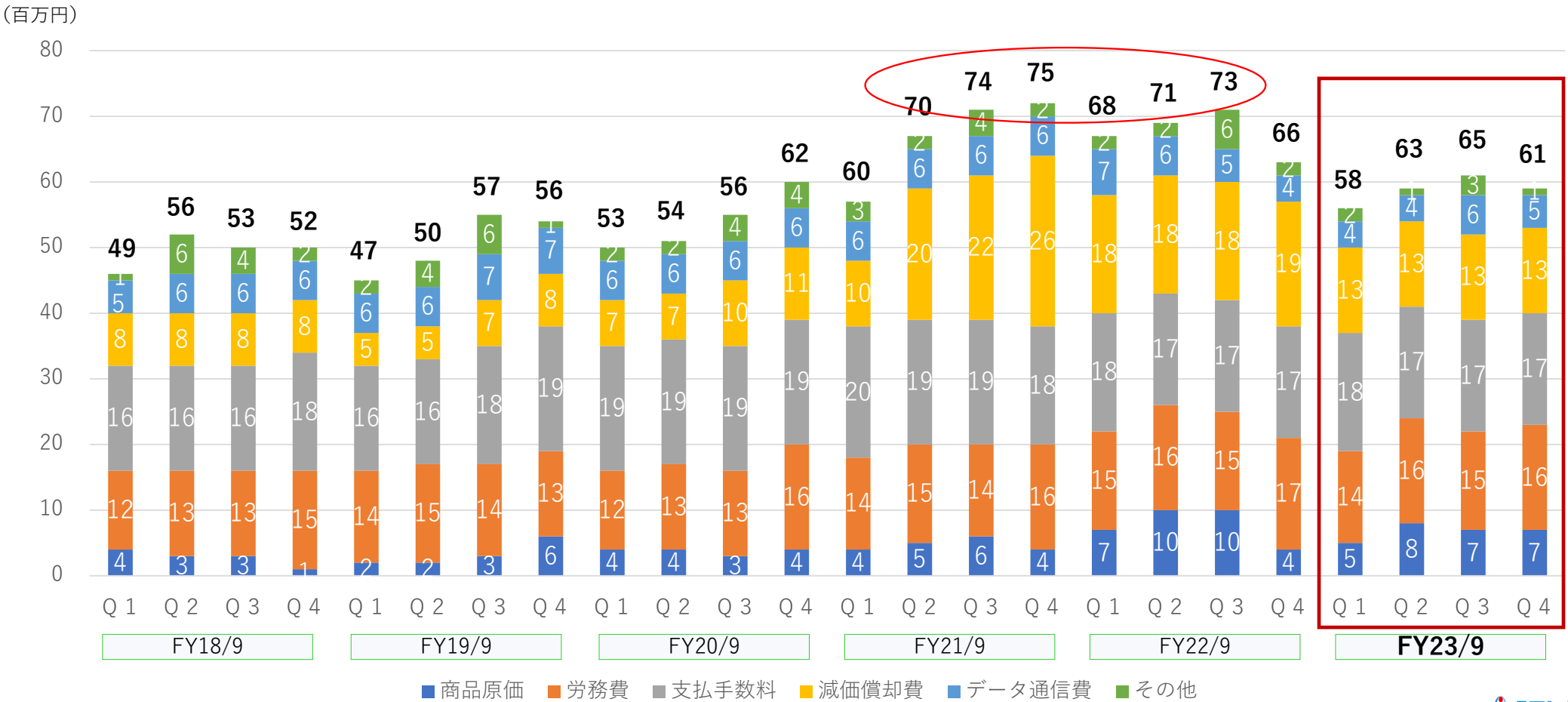
- ✓ 毎四半期、売上高は前年同期を上回り続けています。今後もこの傾向は続くと考えています。
- ✓ 当期においても、全ての四半期で前年同期を上回る過去最高の売上を実現しました。



■ データ通信サービス ■ 通信機器販売

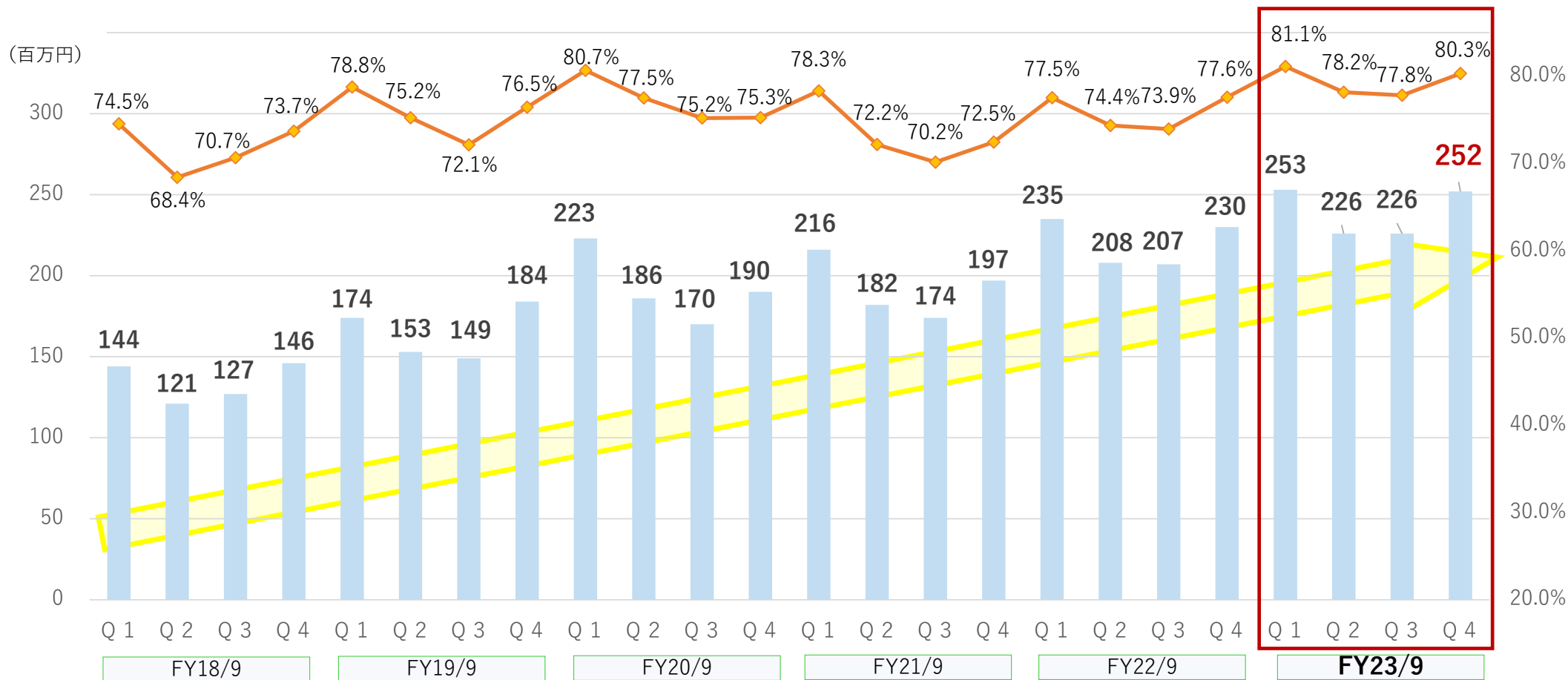
# 売上原価（四半期）の推移 （過年度5カ年+当期）

- ✓ 売上高の上昇率よりも売上原価の上昇率は緩やかです。
- ✓ サーバーの増強などにより増加する場合があります（FY21/9、22/9）。



# 売上総利益（四半期）の推移 （過年度5カ年+当期）

- ✓ 売上原価の上昇が緩やかであるため、売上総利益・粗利率ともに着実にベースアップしています。
- ✓ 当期においても、全ての四半期で前年同期を上回る過去最高を実現いたしました。



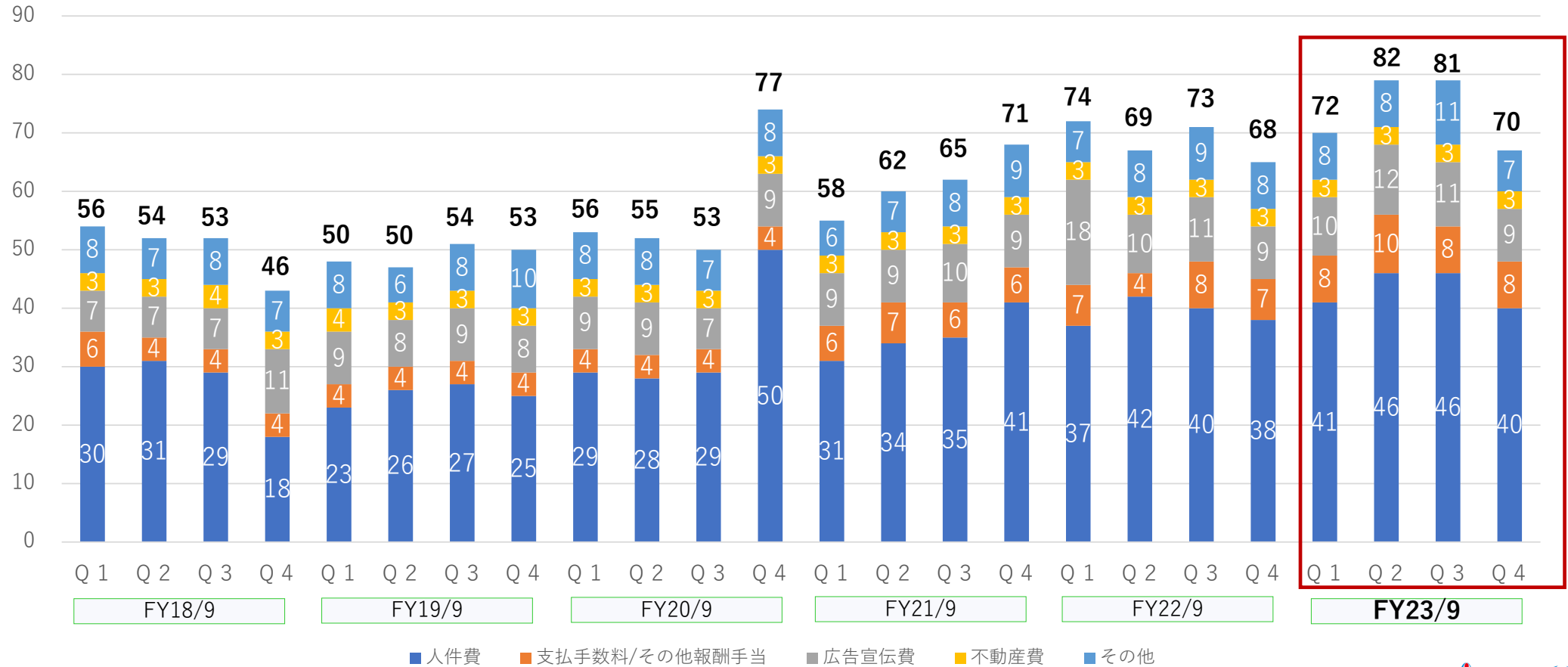
■ 売上総利益（四半期）（左軸）      ◆ 売上総利益率（右軸）

Copyright © 2023 JENOBA CO., LTD. All rights reserved.

# 販管費（四半期）の推移 （過年度5カ年+当期）

✓ HPの刷新やリニューアルなどで一時的に上昇することはありますが、比較的緩やかな上昇に落ち着いています。

(百万円)



# 貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書

## 貸借対照表

(単位：百万円)	FY21/9末	FY22/9末	FY23/9末
流動資産	2,162	2,506	3,367
現金及び預金	2,062	2,355	3,231
固定資産	238	178	124
有形固定資産	168	119	74
無形固定資産	19	13	7
投資その他資産	49	46	42
資産合計	2,401	2,685	3,491
流動負債	285	354	346
固定負債	38	42	52
負債合計	324	397	399
純資産合計	2,077	2,287	3,092
負債・純資産合計	2,401	2,685	3,491
自己資本比率	86.5%	85.2%	88.6%

## キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	FY21/9	FY22/9	FY23/9
営業活動による キャッシュ・フロー	399	563	536
投資活動による キャッシュ・フロー	△207	△19	△6
財務活動による キャッシュ・フロー	236	△216	346
現金及び現金同等物の 増減額	428	327	876
現金及び現金同等物の 期首残高	1,539	1,968	2,295
現金及び現金同等物の 期末（四半期末）残高	1,968	2,295	3,171

- ✓ 高い自己資本比率を維持
- ✓ プラスのキャッシュ・フローを生み出す優れた収益モデル
- ✓ B S、C F / S とともに上場時のファイナンスが寄与

# 03 通期業績予想

Earnings guidance



# 2024年9月期の業績予想

F Y 23/9 実績		F Y 24/9 計画	
(単位：百万円)		前期比	
売上高	1,206	<u>1,273</u>	105.6%
売上総利益	957		
(売上高総利益率)	(79.4%)		
営業利益	651	<u>666</u>	102.3%
(営業利益率)	(54.0%)	(52.3%)	
経常利益	641	<u>667</u>	104.0%
(経常利益率)	(53.2%)	(52.4%)	
当期純利益	443	<u>455</u>	102.7%
(当期純利益率)	(36.8%)	(35.8%)	

2024年9月期も売上高、営業利益、経常利益、当期純利益、全てにおいて**過去最高**を目指します。

## 売上高

- ✓ 測量分野は今期も堅実な成長を計画
- ✓ ICT土木、IT農業分野は、国の推進施策でもあり、前期以上の増加を計画
- ✓ ドローンの活用される場面が更に増えてくると考えています

## 営業利益<sub>以下</sub>

- ✓ 今後2～3年で7名程度の増員を計画  
それに伴うコスト増を計画に折込み

## 配当

- ✓ 増配計画：5円00銭（2023年9月期予定：4円00銭）

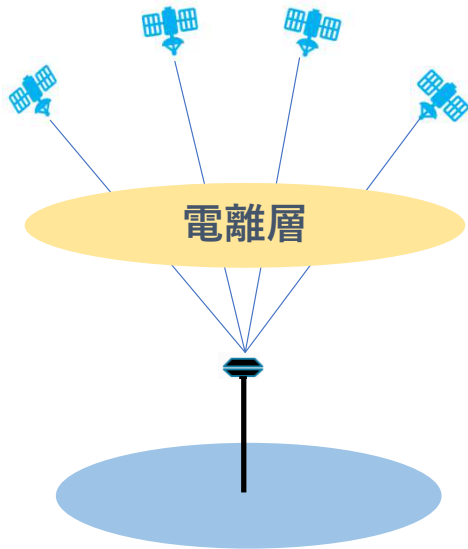
# 04 事業紹介

Our business

# サービス概要

■ ジェノバのリアルタイム位置補正情報は\*GNSS機器に対して提供しています。

## 【衛星測位】



### 【誤差要因】

衛星クロック誤差

衛星軌道誤差

衛星システム誤差

電離層による遅延

対流圏による遅延

メートル級の誤差

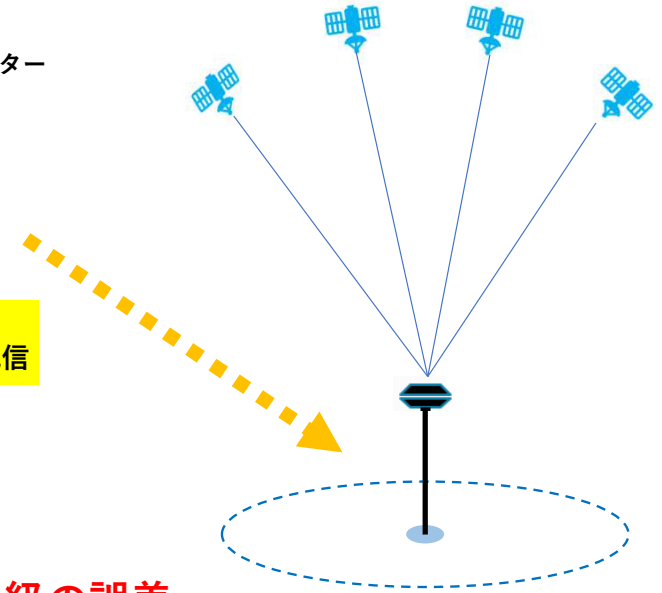


ジェノバデータセンター



誤差要因を除去した  
補正情報データを配信

センチメートル級の誤差

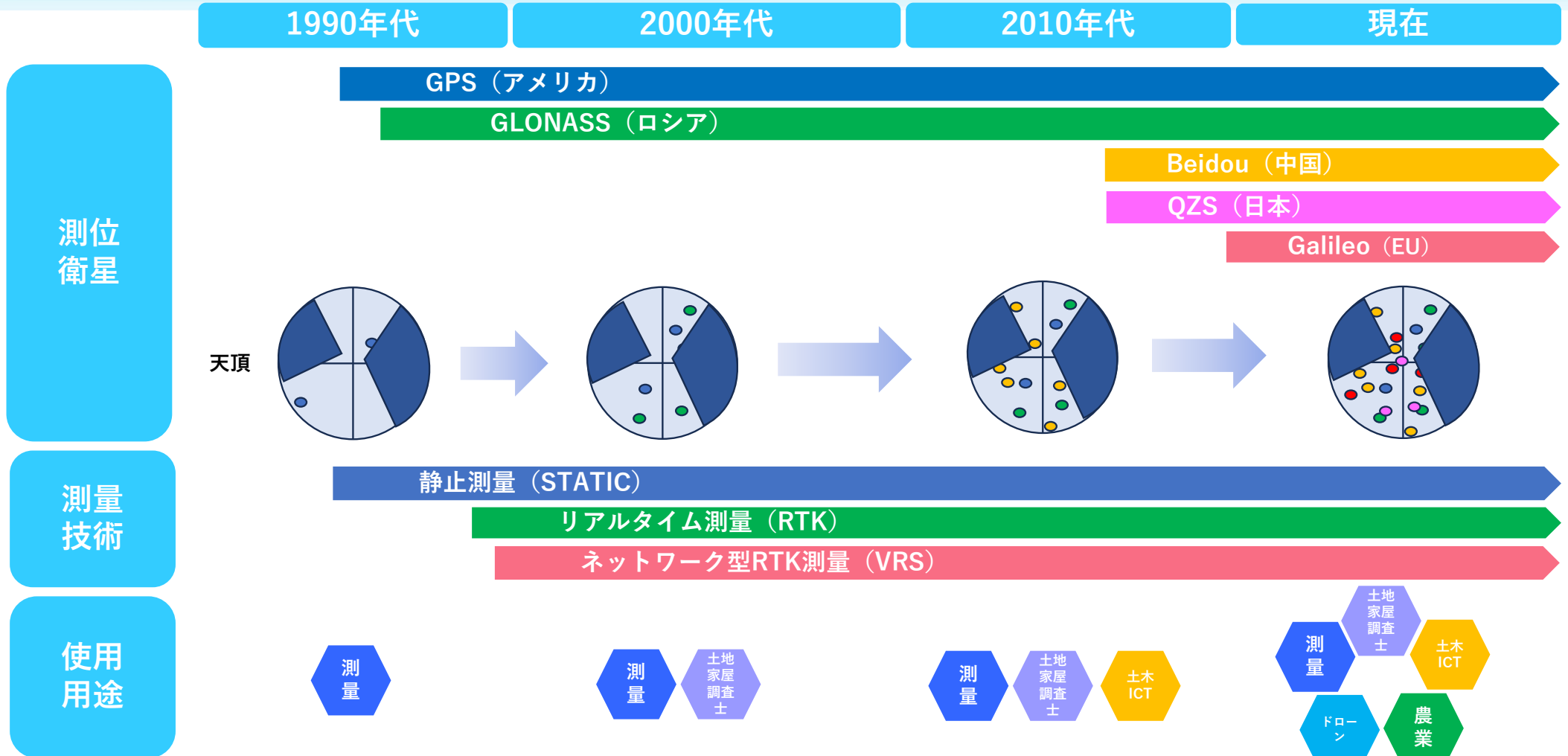


GNSS機器単体で観測する単独測位の場合  
衛星から送られてくるデータには様々な誤差要因が含まれて  
おり、メートル単位の誤差が生じます。

例：カーナビや携帯の位置情報 etc.

補正データを受信した\*GNSS受信機は、  
リアルタイムに自己位置を正確に解析することが出来るため、  
誤差が数メートルから数センチになります。  
この高精度な位置測位が実現することで、  
測量分野を始め様々な分野へ利用が拡大しています。

\*GNSS: GNSSは [Global Navigation Satellite System : 全地球衛星測位システム] の総称で米国のGPS、ロシアのGLONASS、EUのGalileo、中国のBeiDou、日本の準天頂衛星システム (QZS) などがあります。



# 主力サービス提供分野



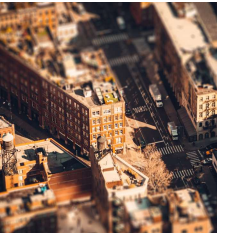
ドローン

測量



IT農業

航空測量



土木  
ICT施工

土地家屋  
調査



## 測量



### 公共下水道工事計画に伴う活用

株式会社帝国建設コンサルタント 様

下水道事業の全体計画においては範囲内の地形勾配が重要となるため、全ての道路交差点中心及び勾配変化点、平面的変化点をネットワーク型RTKにて3次元計測を行い、その成果を用いて下水道配管計画へ反映させる業務を実施。従来法と比較し、1,200haという広範なエリアを短期間で効率良く作業する為にはネットワーク型RTKが現状では最適であると判断し活用している。

## IT農業



### 無人田植機システムへの活用

独立行政法人中央農業総合研究センター様

田植機を自動作業させるため、目標とする走行経路の設定を行い、これに沿って自動的に走行。あらかじめほ場の入り口と四隅の位置を測っておき、これを初期データとしてコンピュータに記憶。ほ場入り口付近に田植機をおき、プログラムをスタートさせると、ほ場内に進入し、記憶した四隅の位置データをもとに自動的に走行経路を作成し、作業を開始します。

## 土木ICT施工



### 転圧管理システムで活用

宮城建設株式会社 様

久慈北道路事業計画内で発注された道路改良工事を受注し、盛土の締め固め管理を行うため、情報化施工の活用を決定。GNSS受信機+転圧システム+ジェノバ配信によるネットワーク型RTKを利用した転圧管理システムを現場採用しました。

## ドローン



### 森林資源量の調査で活用

KDDI株式会社様、国際航業株式会社様

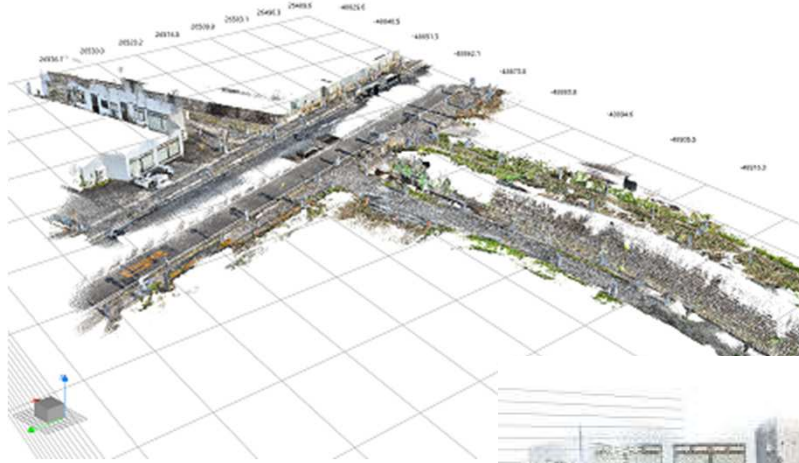
兵庫県庁（神戸市）から約70km離れた宍粟市のドローンを遠隔操作し、同市の森林をネットワーク型RTKサービスを活用した位置精度が高い画像で撮影することで、森林資源解析用データの効率的な作成に寄与することを確認しました。

# サービス活用事例

インフラ

## 簡易的なGNSSスキャナーを活用した現場調査

～携帯電話のライダー機能を利用した3D計測～



株式会社近代設計 様

3D点群が容易に取得することができ、計測した長さも3D点群上で再現できました。また現場は他社が事前にドローン測量を行っており、ドローン測量を行っていない部分を補足するようにスキャンを実施したところ、ドローン測量の成果座標値に合致する形で、3D点群を取得することができました。ジェノバ社のサービスを利用したことが、より高精度な観測結果かつ、他の成果との整合性がとれた点に寄与していると考えております。このことから熟練者が現地調査する必要もなく、かつ多くの情報を取得することができることから、作業の効率化が期待できます。

Copyright © 2023 JENOBA CO., LTD. All rights reserved.

## IT農業

## 草地造成改良作業のスマート化にネットワークRTKの活用



### 公益財団法人 北海道農業公社様

いずれの作業もトラクターをはじめとした農機で行うのですが、農地に対してまんべんなく作業を実施するために（作業ムラがないように）、農機の操縦に熟練度が求められます。そこで農機にGNSSアンテナと受信機を搭載し、高精度な位置情報を取得し、位置データを基に自動操舵させることで、スマート化を実現させました。

スマート化した農機の作業は、熟練ドライバーが実施した作業成果と遜色なく、業務の人手不足の問題解消に寄与することがわかりました。ネットワーク型RTK（VRS）は、RTKに必要な基準局が仮想のため、基準局の機器設置やメンテナンスの必要がないことと、全道どこでも同じ品質で作業できることがメリットと言えます。



## エンターテインメント

## ネットワーク型RTKサービスを活用した自動音声ガイド 実証実験の活用



KDDI様、沖縄セルラーアグリ&マルシェ様、  
motti 西表島トレッキングエコツアー様、竹盛  
旅館様、沖縄県竹富町様

従来の非対面型の音声ガイドによる  
観光案内は位置情報の誤差が大きく、  
反対方向の説明をするなど見ている  
ものと内容が合いませんでしたが、  
ネットワーク型RTK活用の高精度位  
置情報とGNSSコンパスの連携により、  
体の向きに応じた観光案内など精度  
の高い音声ガイドを行うことができ  
ました。これにより、スマートフォン  
など観光客の操作が不要になり、  
ストレスフリーな西表島観光ガイド  
を非対面で実現しました。

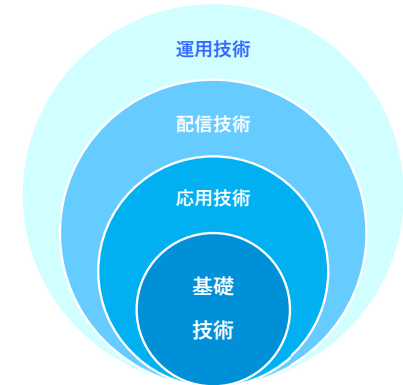
# 高精度な補正データを安定提供する技術

## 特長① 長年にわたり蓄積された高精度位置情報の配信ノウハウ

課題: 配信精度が安定しない。配信点数が多くなることによるデータ遅延が起こる

原因: 安定配信のためのノウハウ不足

- **解決:** 当社では長年にわたり、配信用の解析システム提供メーカーとの情報交換により、日本における大規模な配信システムの構築を行ってきており、サーバーの構成比やネットワーク関連のシステム構成ノウハウなどの知識の積み上げと、大規模災害後の運用ノウハウなど、高精度位置情報配信業者のパイオニアとしての数多くの経験が安定配信に寄与しています

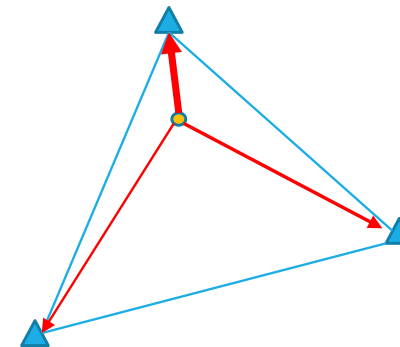


## 特長② 最寄りの電子基準点成果に整合(特許第5832050号)

課題: 地図に整合しない、公共作業では国家座標を使用しなければならない

原因: 日本周辺には複数のプレートがあり常に移動しているため位置が常にずれる

- **解決:** 当社では全ての電子基準点の中から観測位置最寄りの3点を自動的に選定し、国土地理院が公表している最新座標値に整合(当社特許技術)するよう補正データ配信を行います。



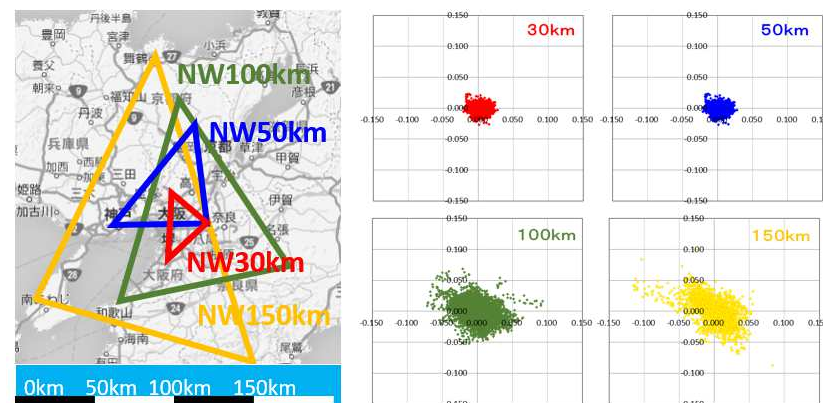
リアルタイムに観測される電子基準点の今期座標を国家座標(地図上の座標)に変換して整合させる技術

## 特長③ 補正データ生成のための電子基準点の高密度化

課題: 配信データが安定しない、精度が出ない

原因: 電子基準点間の距離の問題と電離層によるデータ遅延の影響

- **解決:** 当社では国土地理院の設置するすべての電子基準点(約1,300点)の中から健全な電子基準点を選択し、高密度なネットワーク網を構成することで、安定的な高精度位置情報配信を実現しています。



## 特長④ 配信システムの冗長化と安定配信

課題: 配信システムが停止、データ配信が遅延する

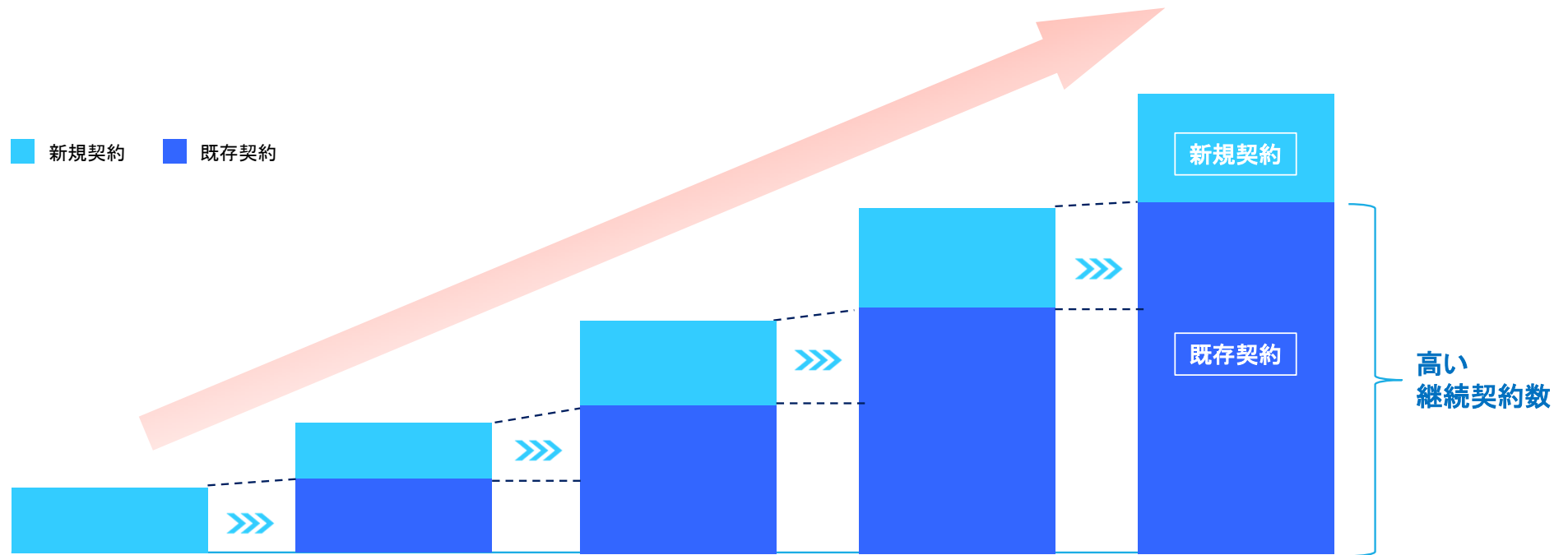
原因: 配信システムのデータ量増大・サーバー容量不足・ネットワーク不具合等

- **解決:** 当社では解析用電子基準点の高密度化等により安定した配信データを提供しています。またサーバー関連においては、システムのデータ量チェックやVMサーバー負荷の監視・ネットワークの監視を行っており、それぞれのシステムを二重化する事により、24時間365日停止しない安定した配信を行っています。

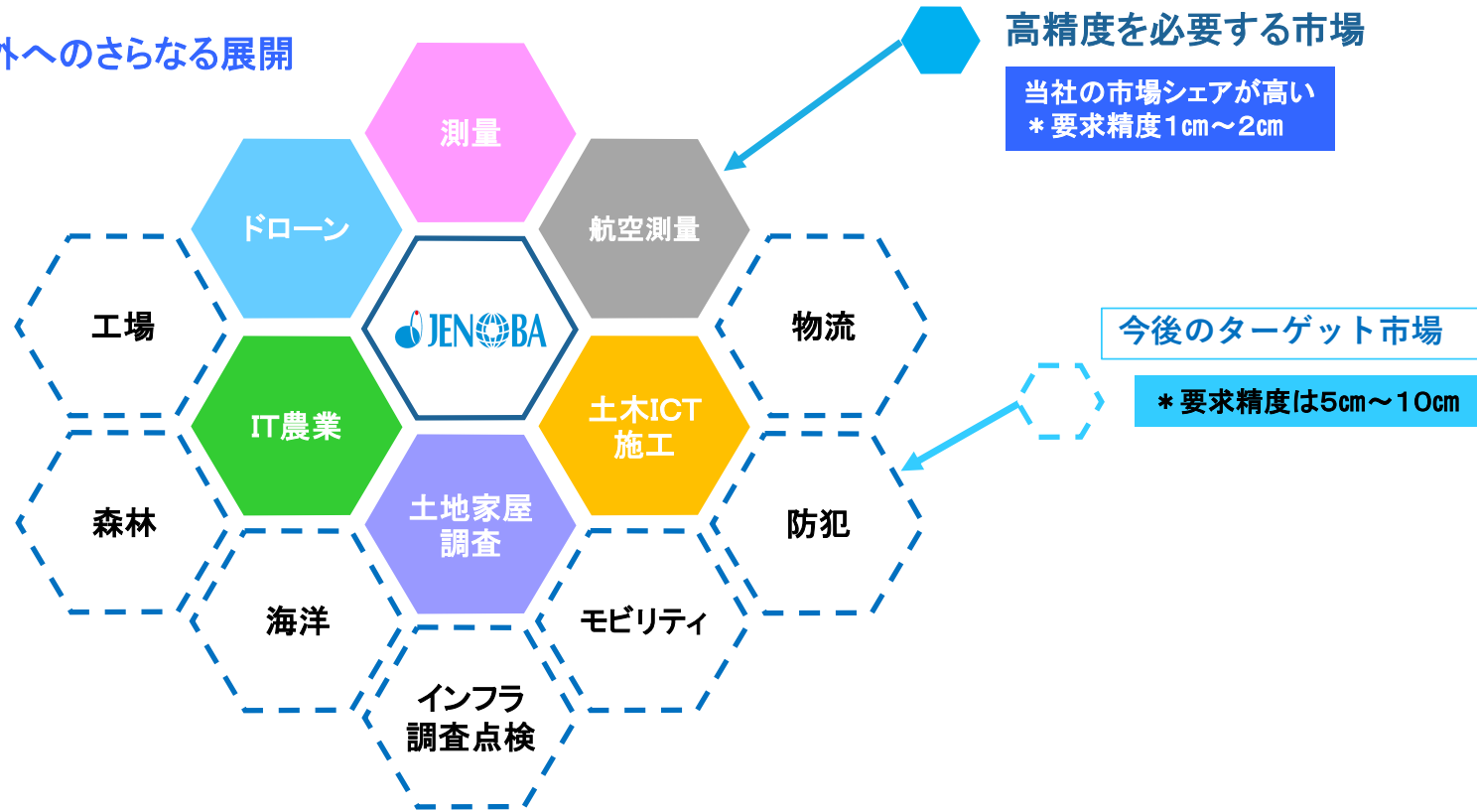


# ストック型ビジネスモデル

- 新規契約が継続して積み上がり、既存契約が増加するため、安定した売り上げ成長が可能です
- ドローン、IT農業等でのさらなる拡大や、新規領域でのサービス展開を進め、新規契約の増加スピード拡大を狙います



測量分野以外へのさらなる展開



対象となるターゲット市場を広げ、新ビジネスパートナーを分野ごとに形成し契約件数の増加を計画

# 05 質疑応答

# 株価と売買高の推移（上場来）



※ 2023年4月18日から2023年11月16日までの株価及び売買高の推移になります。  
 上場初日は値が付かなかったためグラフが空欄になっております。

Copyright © 2023 JENOBA CO., LTD. All rights reserved.







# お問合せ先

## 株式会社ジェノバ（証券コード：5570）

IRに関するお問合せ：経営企画室



[support-ir@jenoba.jp](mailto:support-ir@jenoba.jp)

本資料の作成に当たり、当社は当社が入手可能な統計等第三者情報についての正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。

また、現時点の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれている場合がありますが、これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその達成を約束するものではありません。当該予想と実際の業績の間には、経済状況の変化やお客様のニーズ及び嗜好の変化、他社との競合、法規制の変更等、今後のさまざまな要因によって、大きく差異が発生する可能性があります。

決算短信による決算発表は、適時開示の要請に基づき行われるものであり、決算短信の公表時点では監査報告書は未受領となっております。

本資料は、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資に際しては、投資家ご自身のご判断において行われますようお願いいたします。